



## 第二部 報告

今期は会長会に出席された方々が自己紹介後に、「祈りの葉」を交換して互いに祈りあうことしましたので、今回も祈りの葉を交換しました。その後、6月に発行された「シャロンの花だより」でも報告済みですが、4月の会長会やコーヒーショップでの奉仕（3月の東教区総会や7月の東教区主催宣教フォーラム）、今期初めての9月23日一日神学校でのミニショップ出店、また今回の会長会の前日に行われたACWC一日研修会、第22期役員選出についての中間報告が会長からされました。また会計担当の中島美津江役員からは今年度の女性会会費の納入も順調になされたこと、財務状況も問題がないことが報告されました。



右写真：田園調布教会幼稚園園舎での諸報告

## 甲信地区女性の集い開催

毎年開催の「甲信地区女性の集い」を今年も7月9日（土）に開催しました。会場は松本教会が改修中で松本地区センターになりました。開会礼拝、「キリスト者としての旅立ちの準備」について市原悠史先生のお話、その後は嬉しいことに休会中の甲府教会からの参加者も加わってのパネルディスカッション、最後に閉会礼拝がありました。

参加者は松本、飯田、諏訪、長野から女性会会員が27名、市原悠史、大宮陸孝、佐藤和宏、浅見正一の4牧師先生、休会中の甲府から女性4名、東教区女性会から全役員出席で合計41名の盛会になりました。



松本地区センターでパネルディスカッション

#####

### 甲信地区の活動報告

- 2011年4月23日 拡大役員会（役員では無い方も出席しました）
- 7月 9日 「甲信地区女性の集い」 当番：長野教会 於：松本地区センター  
テーマ：「キリスト者としての旅立ちの準備」 東教区・宣教フォーラム準備委員会発行「『わたし』に至る道」冊子を地区会員全員に配布
- 9月 甲信地区だより67号発行

松本教会改修工事は11月に終了しました。次回からは、教会の礼拝堂でも礼拝ができます。

## 諸報告

1. **NCC**(日本キリスト教協議会)は来年の世界祈祷日3月2日(毎年3月第1金曜日に開催される)の式文翻訳が完成したこと、2. **ACWC**(アジア教会婦人会)は10月28日(金)に飯田橋の日本キリスト教団富士見町教会で研修会が開催され、日本福音ルーテル教会からはx x名が出席したこと、3. **ほしくずの会**は、いつも熱心に活動に参加されている杉本範子姉から会の働きについて、4. **いつくしみ**は、石飛久子姉が関西で活動中でしたので今回は石原京子姉(市ヶ谷教会)が会の働きについて、5. **女性会連盟**は阿部富美子姉が東日本大震災に関連して連盟の雑巾・応援メッセージプロジェクト、アルバム復元のための「思い出洗い隊」の活動について、6. **LWF/WICAS**は熊本在住の俵恭子姉の出席ができませんでしたので元LWF/WICAS協力委員の星野淑江姉からその活動について、以上の口頭による報告がありました。以下はLWF/WICAS俵姉からの書面による報告の主な内容です。

**LWF/WICAS 書面での報告の主な内容** : LWF/WICAS が発行した冊子「ジェンダーとパワーに関する信仰的省察」(仮題)を翻訳中。LWF/WICAS より「女性のネットワークとジェンダー公正」(Women's Network and Gender Justice)7カ年行動計画(2011~2017)の策定と実施呼びかけが来ています。この策定と実施の目的は「多様性と男女平等を認める信仰共同体」(Lutheran Communion engaged for inclusiveness and gender justice)の形成ですが、呼びかけを受けて作成した7年間の行動計画案を2011年9月27日~28日に開催された第8回女性会連盟役員会に提案しました。7カ年行動計画の5年目には「LWFが求めている男性4:女性4:青年2の教会の決議機関の中での割合実現をめざして、女性会連盟代表を本教会常議員に、各教区女性会会長を各教区常議員に加える組織改正案を協議。女性会連盟総会で改正案を決議してJELC総会に常議員選出改正案を提出」があります。



- \* ジェンダーとは、《社会的文化的な性のありよう》のことを言います。例えば「夫が外で仕事をし、妻は家を守る」、「男は人前で涙を見せない」、「化粧は女がするもので男はしない」、「女性は教会の集会では男性をたて、黙っているべきだ」、これらはすべて、ジェンダーにかかわることです。男はこういうもので、女はこういうものであると、社会や文化がつくっている《性のありよう》です。
- \* パワーとは、《ちから》のことです。権力や威力など、権威を伴う《ちから》の意味合いで使われています。

**LWF/WICAS** (エルダビュルエフ/ウイカス)は

Lutheran World Federation/Women In Church And Society

「世界ルーテル連盟/教会と社会における女性」の頭文字です。

### 第三部 公開講座

会長会当日の 10 月 29 日午後には、今年 1 月 12 日に学校法人ルーテル学院理事長に就任された松澤先生を招いてお話を伺いました。先生は 100 年を越す歴史がある学院の初代女性理事長です。

#### 「召命に応じて生きる」 講演要旨

学校法人ルーテル学院理事長 松澤員子 (京都教会)



人生は出会いの連続です。思いがけない出会いが自分の人生を決定づけたことに後に気づくことも多いと思います。また、人生には「あれか、これか」の決断を迫られることも度々あります。「主よ、これは私に備えられた道ですか?」と、問いつつ、祈りつつ決断する時、必要なものは与えられ、貧しい自分が用いられる喜びに感謝することができます。

私の人生を決定づけた 3 つの出会い—①神戸女学院大学、②梅棹忠夫先生、そして③養子静夫との出会い。私は高校時代、大きな病を患い、希望した国立大学理系への進学を断念、快適な寮生活ができるという、ただそれだけの理由で、不本意ながら、神戸女学院大学に入学しました。しかし、そこではじめて聖書に出会い、信仰に導かれ、文化人類学の師に出会い、健康が与えられました。もし大病を患わなければ、この出会いはなかったのです。この出会いは神のご計画であったと信じています。私の生きる基盤が与えられたのです。卒業後は自分の希望したキリスト教主義の高校教師になり、大満足でした。にもかかわらず、恩師の再三再四の勧めで、文化人類学の先進国、米国への留学を決断。しかし、それが神のみ心にかなった道なのか、問い続けていました。博士課程の勉学を終え帰国。1972 年ルーテル神学大学に専任講師として就任。そして、1975 年創設されたばかりの国立民族学博物館に助教授として着任。初代館長梅棹忠夫先生との出会い。梅棹先生は、1959 年『婦人公論』に「妻無用論」という論考を寄せておられます。まだ電化製品が一般家庭に普及していなかった時代に、その普及は妻の家庭での仕事は不要にする。だから、女性自身が社会的職業を持つほかなくなるのである、と指摘。職場においても男女は社会的に同質であると強調。また、研究者には共同研究を組織し、研究費の獲得から成果の発表まで責任をもつことを勧められました。私は、組織の意思決定に参加し、意見を交わす訓練をここで受けました。後に、学校の運営や経営のトップとして重責を担うことになった時、梅棹先生のもとで訓練されたことが活かされたと感謝しています。最後に、私は 58 歳にして、台湾から養子を迎える決心をしました。私の台湾でのフィールドワークの拠点としてお世話になっていた老夫妻の孫です。静夫が 8 歳の時祖父が死亡、11 歳で祖母が死亡。その祖母の遺言と静夫 (12 歳) の決心を受けての大きな決断でした。仕事と寛げる家庭の両立を模索しながら、日々自らに問い、神のみ心を問いつつ、歩み、豊かな経験をさせていただきました。

日本は女性の社会参画後進国です。皆さんには女性が多様な生き方を選択できる社会、また社会に参画し、活力を与える社会を目指して、リーダーシップを発揮していただきたい。リーダーに必要なカーそれは①他者も神の前に自分と同じ貴い人格として受け入れる寛容、②他者の考え方を柔軟に理解する心遣い、③状況判断力と現状認識力、④しなやかな自信と責任を担う決断力、と私は思います。

松澤員子先生のプロフィール：

神戸女学院大学文学部社会学科(現：総合文化学科)卒業。アメリカの 2 大学院で文化人類学を専攻、修士及び博士の学位を取得。帰国後、日本ルーテル神学大学専任教員を経て、国立民族学博物館研究部教授として文化人類学の研究に従事、総合研究大学院の教授も兼任。1998 年神戸女学院大学学長、2002 年神戸女学院理事長・院長に就任(～2010 年 3 月)。

今年の東教区女性会の活動の一つである東京老人ホーム訪問が行われました。総勢、女性会から43名、ホームの皆様30名の73名で、午後のひと時を過ごしました。阿部富美子連盟担当役員の感想を紹介致します。

## 東京老人ホーム訪問

阿部富美子 連盟担当役員 (羽村教会)

11月16日(水)、秋の深まる中を東教区女性会で東京老人ホームを訪ねました。小石川教会の4人の耳が不自由な姉妹も参加していただきましたが、ホームの方の巧みな手話通訳にも、感謝でとてもうれしく思いました。

プログラムの第1部では女性会の姉妹が讃美歌を歌い、東京老人ホーム施設統括長の高橋睦さんよりご挨拶を頂きました。尚、東日本大震災の時には、ホームの職員の方たちは通常勤務として、現地の施設に赴き活躍されたと伺いました。

第2部で入所者の皆さんと共にプログラムを楽しみました。今回は熊谷祥子副会長(飯田教会)が朗読と手遊びを担当。武蔵野教会の中山康子姉に歌の指導、保谷教会の西千恵姉にピアノ伴奏をお願いしました。「月の砂漠」「りんごのひとりごと」「ふるさと」は全員が歌い、「浜千鳥」は中山姉の美しい歌声の独唱です。車椅子に乗っていた方々も、みんな一生懸命に口を動かしたり、指で音を取ったりされていたので楽しんでくれたと思います。熊谷姉が鍛錬された声で朗読されたのは「きいちゃん」など三編のお話や詩です。ホールの中では、うっとりするような時間が流れました。

入所者の皆様がお部屋に戻る時には、蒲田教会女性の会の手作りクリスマスカードをプレゼントし、喜んでいただけました。日ごろ、訪問者が多くない入所者の方にとって、幸せなひと時であったと信じます。

また、第3部としてボランティア世話人代表の大森はつ子姉によるボランティアのお話がありました。

私たち女性会の姉妹も充実した時間を過ごしましたが、体の不自由な方のお世話という大変な仕事をなさっている職員の方々のことを祈っていききたいと思います。



プレゼントした「蒲田教会の女性の会」の手作りクリスマスカードと交流の会場です。

## 東日本大震災へのボランティア活動をして

東日本大震災後、飯田教会員の市川佐代子さんは仙台教会の中に出来た「ルーテルとなりびと」に行き、3ヶ月のボランティア活動をなさいました。11月下旬に市川さんに安藤淑子会長がインタビューをしました。

安藤「なぜご自宅から遠く離れた仙台まで行って、ボランティアをしようと思われたのですか」

市川「私は今年の3月末まで勤務していました。4月から自由の身になりましたので、東日本大震災については、何か自分でも出来ないかと考え仙台に行きました」

安藤「仙台教会の礼拝堂に寝袋で泊まり、石巻まで毎日片道一時間半以上もかけて通われたのですね。主にどんなボランティア活動をなさいましたか」

市川「仙台教会も最初はボランティアを受け入れる設備が整っていませんでしたが、徐々に畳が敷かれたり、お食事も暖かい物が食べられるようになったりしました。また、遠くの銭湯ではなく、近所のお風呂に入りに行けるようにもなりました。私は、4月初旬は多賀城市という所で活動しました。そこでは中学生たちも参加していました。肉体的精神的にもきつい作業なのに、終わる頃にはとてもいい笑顔で戻ってきました。一種の達成感でしょうか。それから5月初旬まで、石巻にある宮城県社会福祉協議会の依頼で、全国からやってくるボランティアの受付を主に担当しました。その後、6月末迄は、気仙沼で施設が被災したためあるクリニックを避難所とした老人施設で、お年寄りの介護のお手伝いをしました」

安藤「最初はお休みもとらないで、毎日石巻まで通われたと伺いましたが、お疲れは出ませんでしたか」

市川「緊張していたためか、体の疲労は感じませんでした。後からは時々休むようにしました」

安藤「7月には3ヶ月間ものボランティアを無事に終えてご自宅に帰られたわけですが、その頃はどのような気持ちになりましたか」

市川「最初は、自分は家に居ていいのか、やはり被災地に行くべきでは、と悩みました」

安藤「今ご自宅にいらして、何か東日本大震災にかかわるボランティアをしていますか」

市川「今月、11月6日(日)に私が住んでいる阿智村で阿智祭がありました。気仙沼のNPO法人「ネットワークオレンジ」が障害者就労支援で“ぽっかぽっか堂”というグループを応援しています。このグループは震災前の活動場所が津波で崩壊し、就労支援しているオレンジの活動場所で再出発しました。そこでお菓子の袋詰めなどの仕事をして、その売り上げが給料となっています。今、グループ員は新聞紙でエコバッグも作っています。震災の様子を掲載している新聞記事が見えるようにしたエコバッグです。そのバッグにお菓子をいれて販売しています。私はこのエコバッグを買い取って今度の阿智祭で売りました。また気仙沼の“けっぱっぺ”が手作りしているクリスマスカードも販売しました」

安藤「ご自宅でも活動を続けていらっしゃるのですね。他には何か予定していますか」

市川「もうすぐ、夫とその農業仲間で作ったお米を皆で気仙沼に届けに行きます。来年になったら、また被災地に行ってボランティアをしたいと考えています」

安藤「市川さんは小柄なほうですが、一体どこからあのようなエネルギーが出てきたのでしょうか。私も市川さんを見習って自宅に居てもできることをしようと思います。市川さん、どうぞお体大切に、これからも良い活動をお続けください」





# 東教区女性会総会

2012年

2月4日(土) 10時30分～16時

於：東京教会

3年ごとに開催される総会です。この総会では第21期の活動を総括し、今後の東教区女性会が進むべき道を話し合います。また役員の変更があります。

本総会では第21期役員会は、毎年春と秋に開催されている“会長会”の名称の変更を提案したいと考えています。その理由は“会長会”の名称が「参加者は会長のみ」の誤解を招く恐れがあるからです。会の内容を表すより適切な名称を皆様から提案していただきたく思います。そのために、総会前に各女性会で話し合いの機会を是非設けてくださいますように。また皆様が「東教区女性会の活動としてすべきこと、してみたいこと」などの提案をお願いいたします。それらの提案を総会前に役員会にお知らせいただければ幸いです。

なお、総会での議決権は女性会連盟東教区女性会規約によりますが、総会には会長だけでなく女性会会員はどなたも出席大歓迎です。また、総会資料は2012年1月下旬にはお手元に届くように、現在準備中です。

：：

今年は東日本大震災を初めとして多くの自然災害がありました。女性会も被災された皆様の痛みを分かち活動が、幾分かでも、出来たことを喜んでいきます。皆様が一日も早く、心の痛みが癒されるように、また生活が軌道に乗りますよう心より祈ります。

：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

## 📧 提案の送付先

- 東教区女性会役員 熊谷祥子、木村富久子、阿部富美子、中島美津江、坂上靖子、松比良節子、安藤淑子 144-0035 大田区南蒲田 3-4-16